

保護者の皆様へ

練馬区立関町北小学校長 吉川文章

令和5年度 全国学力学習状況調査結果の報告と考察、今後の取組について

日頃から本校の教育活動にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。4月に実施しました「令和5年度全国学力学習状況調査」の結果につきまして、下記の通り調査結果及び今後の取組についてお伝えをいたします。

記

1 教科の調査結果（国語・算数） ※数値は平均正答率(%)です。

【国 語】		【算 数】	
本校	67	本校	66
東京都（公立）	69	東京都（公立）	67
全国（公立）	67.2	全国（公立）	63.2

今年度は2教科の調査となります。国語は全国と、算数は東京都と近い正当率となりました。東京都は国語が全国6位、算数が1位の正答率です。これを見ると算数は健闘していますが、国語は若干数字が落ちているように感じられます。次に項目別の結果をご覧ください。

【国語 項目別】

分類		区分	本校	東京都（公立）	全国（公立）
全体			67	69	67.2
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.3	73.6	71.2
		情報の扱い方に関する事項	68.3	66.5	63.4
	思考力，判断力， 表現力等	話すこと・聞くこと	62.0	73.5	72.6
		書くこと	25.8	28.9	26.7
		読むこと	73.8	73.2	71.2
評価の観点		知識・技能	71.9	71.6	68.9
		思考・判断・表現	61.9	67.0	65.5

話すこと・聞くこと、書くこと、さらには、思考・判断・表現に課題があると一見感じられます。さらに細かく問題、設問内容に踏み込んで分析します。3つの問題のうち、最初の2つは、都の平均と同等の値でした。値が低かったのは、最後の問題で、「ボランティアの人へのインタビューに関する出題の形式」です。「子供たちの素敵な姿を見てうれしい気持ちになる」という言葉に着目し「素敵な姿とはどのような姿ですか」と質問をした「理由」として適切なものを選ぶ設問です。正解の「相手の話の中身をより具体的に知るため」は、よく読み込めばそう難しくはない設問ですが「無回答」の割合が高い値でした。この問題は最後になればなるほど無回答の割合が増えています。さらには調査の後のアンケートで「時間が足りなかった」と回答している割合も同様でした。「問題用紙と解答用紙が分かれている」「問題文と設問が数ページにわたっている」形式の調査に取り組むこと自体が初めてあることで、ずいぶんと苦勞をしたことが推察されます。つまり話すこと・聞くことや思考力等の値が低いのは、このような形式の問題に慣れていないことが主な原因と考えられます。言い換えれば、このような形式の問題を経験する機会を設けることによって、本来の力を発揮できるとも言えます。

資料を読み込み、条件(必要な事柄や字数)に基づいて「記述」する問題に慣れていくことが必要であることもわかりました。

【算数 項目別】

分類		区分	本校	東京都（公立）	全国（公立）
全体			66	67	63.2
学習指導要領の領域	数と計算		71.3	71.0	67.3
	図形		52.4	54.8	48.2
	変化と関係		76.1	75.8	70.9
	データの活用		68.4	67.3	65.5
評価の観点		知識・技能	71.6	71.5	67.2
		思考・判断・表現	59.7	61.2	56.5

「図形」の領域、「思考・判断・表現」の観点以外は、東京都の値を上回っています。細かい設問を見ていくと「台形は向かい合った1組の辺が平行であること」を解答する設問が低い値でした。そう難しい内容ではありませんが、「テープを直線で切って」など、「ひと手間かけた」問題の作りによって混乱をしたことが考えられます。「図形」の似通った設問では、都の値を大きく上回りほぼ満点の値を示すものもありました。これも国語の調査同様に、このような形式に慣れていくことが今後求められる結果と考えています。また算数のアンケートでも国語と同様「時間が足りなかった」と回答している割合が高かったです。算数の値は、数年にわたって高い値を示してしておりますので、算数少人数指導を中心とした学力向上の取り組みが一定程度の成果を上げていると考えられます。

2 児童意識調査の結果

下の項目は全て国や東京都の平均を大きく上回った設問です。

- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思います
- 人が困っているときは、進んで助けていますか
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- 友達関係に満足していますか
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
- 今住んでいる地域の行事に参加していますか
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
- 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか
- 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか
- 国語の勉強は好きですか
- 国語の勉強は大切だと思いますか
- 国語の授業の内容はよく分かりますか
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- 教科の勉強は好きですか（国語、算数、理科ともに）
- 国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいますか
- 授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか（同上）

3 調査結果の分析と考察及び今後のと取組について

今までの結果との比較も気になると思いますが、冒頭の調査結果にもありますように、都の数値(全国の順位等)は毎年異なりますし1回の調査のみで本校の学力全てが把握(6年生対象、2または3教科の調査)できるものではありません。また、前述の例(ボランティアの人へのインタビューに関する出題)のように一つの設問の結果によって正答率も左右されます。年度ごとの結果に一喜一憂することなく、エビデンスデータから分析・考察された内容を本校の学力向上の根幹の取組をベースとしながら、「急ハンドルを切ることなく」反映をさせていくことが必要と考えています。

国語の結果からは「思考・判断・表現」、算数では「図形」の分野で値が全国よりも下回りましたが、そこに過度に力点を置いた指導の方向転換は行いません。本校が大切にしている「学習補充」や「習熟度別指導」をこれまで通り着実に進めてまいります。都の平均よりも高かった項目は、現在、本校がめざしている「学びに向かう力(メタ認知)」を高める授業実践によりさらに効果を上げるという仮説のもと「学力の向上」と「人格の完成」の必須のカリキュラムとしてさらに精度を高めてまいります。今後「学力選手権」の取組を新たに実施する予定であることを昨年度に触れましたが、コロナ禍の状況で実施に至りません。図や資料、タブレットを活用し時にはチームで協力して問題解決に楽しく能動的に取り組むプログラムです。本校に定着している「漢字検定」「算数検定」をさらに進化させる取り組みであるとともに、全国学力調査の問題形式にも寄り添うものです。今後、この調査が「コンピューターベーステスト(タブレットに入力するテスト)」に移行していく方向性にもタイアップできると捉えています。合い言葉は、「楽しくなければ勉強ではない」です。令和6年度での実施を模索しています。

こういった取組のベースとなる「生きる力の源」は、児童の「学ぶ意欲と人間力・道徳心の醸成」です。「児童意識調査」で高い項目の全てが、小学校期に身に付けてほしい「生活習慣」であり「生き方、考え方」であり「人間性」です。今回の児童意識調査結果そのものが、本調査の一番の成果の現れと捉えます。「先生は認めてくれている」「人が困っている時、進んで助けている」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」「学校に行くのが楽しい」「友達と協力するのが楽しい」「ふだんの生活で幸せになることがある」の設問は都や全国の数値を大きく上回りました。「いじめはどんな理由があってもいけない」の肯定的評価がほぼ100%の数値でした。この項目は「一朝一夕」で培うことは出来ません。長年にわたり、関北の子供たちを「愛し子」と接し厳しく、温かく導いてくださる地域の皆様のおかげであり、保護者の皆様のご家庭での「躰け」や「愛情」をはじめとする知徳体のバランスの取れた家庭での教育力に他なりません。今後とも学校と家庭、地域が一体となって「チーム関北」として「愛し子を育む」取組を進めてまいりましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

※ 令和5年度の問題と解答は、本校ホームページの「文部科学省コーナー」に掲載しております。興味のある方はぜひご覧ください。

